

2026年3月25日

内閣総理大臣 高市早苗 殿

日本高齢期運動連絡会

【抗議声明】訪米時の非道な言動および高齢者差別の助長に断固抗議する

3月19日、訪米中の高市総理はホワイトハウスにおいてドナルド・トランプ大統領と共に、ジョー・バイデン前大統領を揶揄する目的で掲げられた「オートペン（署名代筆機）」の写真を指差し、笑い声を上げました。この行為は、高齢者の人間としての尊厳を踏みにじる明白な挑戦であり、私たちは強い憤りをもって断固抗議します。

今回の言動が投げかける重大な問題点は、以下の4点に集約されます。

1. 高齢者差別への加担

「オートペンの写真」は、バイデン氏が高齢による心身の衰えのため自ら署名もできずオートペン（署名代筆機）を使っていたと、何の根拠もなく決めつける、悪意に満ちたものです。高市氏の行為は、高齢者を差別し、嘲笑するトランプ氏の非道への能動的な加担です。

2. 高齢者の人としての尊厳の否定

私たちが2022年、に確認した「日本高齢者人権宣言」は、高齢者が尊厳をもって生きられる社会の実現をめざす運動の旗じるしです。同時に、全世界のすべての人々の高齢期を豊かで幸せなものにするための全人類的なルール作りへの提言でもあります。

加齢に伴う変化を差別と嘲笑の対象とすることは、私たちの求める高齢者の尊厳を踏みにじるものです。

3. 国際的な人権規範の確立を妨げる野蛮な振る舞い

高齢者の尊厳を守る国際ルールを作ろうとする世界の人々の努力が実り、高齢者の尊厳を守るための「国際条約」を起草するための政府間作業部会が発足しました。高市氏が行った行為は、国際社会の努力に逆行するものです。

4. 高齢期を軽視する政治姿勢の露呈

今回の行為は、年金の実質的な切り下げ、医療・介護負担の増大、生活保護基準に関する司法判断の軽視など、生存権を脅かす政策を進め、年齢間の分断をあおり、高齢者や難行患者を社会の負担として扱う、高市政権の政治姿勢が露呈したものです。

日本高齢期運動連絡会は、高齢者の生活と権利を守るわが国の運動を代表するものとして、高市総理の行為を決して許すことはできません。私たちは高市総理に対し、自らの言動による人権侵害を猛省し、直ちに公式に謝罪することを強く要求します。同時に、すべての世代が尊厳を持って生きられる社会の実現に向け、人権を軽視する政策を根底から転換することを強く求めます。

以上